

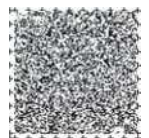
しながわ オレンジガイド

品川区
認知症
ケアパス



認知症と

とももに生きる



誰もが当たり前、自分らしく暮らす社会に

令和5年6月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立し、令和6年1月1日に施行されました。この法律では、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会の実現を目指しています。

認知症は、誰もがなりうるものです。誰もが認知症を我が事として捉えて、認知症の人が住みやすい地域を作ることで、誰もが住みやすい地域になります。

品川区でも、共生社会の実現を目指して、認知症の人やその家族が地域の中で尊厳を保持しつつ希望を持って暮らし続けられるよう、様々な施策に取り組んでいます。

この冊子では、認知症の人やその家族がいつまでも自分らしく生活をしていくための、集いの場やサービスなどの情報がまとめられています。必要とされるときに、必要とされるページからご覧ください。

もくじ

表紙の絵は認知症希望大使の柿下秋男さん、書はとうきょう認知症希望大使の岩田美枝さんが制作しました



品川区
認知症啓発キャラクター
くるみちゃん

特集① 心やすらぐ、出会い、集いの場	3
特集② 希望を持って自分らしく暮らす	5
特集③ 周りの人に知ってもらいたいこと	7
利用できるサポート一覧表	9
出会いたい、話を聞きたいと思ったら	11
相談したいと思ったら	13
暮らしを支えるために	16
● 安心して暮らす	
● 介護保険サービスを利用する	
● 住まいの施設	
若年性認知症について	21
特集④ 理解しあう地域へ	22



柿下 秋男 さん

大学時代、ボート競技の舵取りとして、モントリオールオリンピックに出場。青果市場で働いていた頃に「なんとなくおかしい」と感じ、その後認知症と診断。現在は、認知症希望大使に任命され、講演活動や当事者同士の交流の日々を送る。

認知症とともに生きる 本人からのメッセージ

認知症と診断された当初は、「なんで自分が」という戸惑いの気持ちや、不安で落ち込んでしまうこともありましたが、でも、10年かけて少しずつ、認知症を自分の一部として、当たり前なものだと受け入れることができるようになりました。認知症だからといって楽しめないということはありません。前向きに過ごすことで、新しい出会いもありました。たくさんの仲間と出会い、色々な楽しいことをしています。認知症と診断されて不安に思っている方には、「怖がらなくても大丈夫」「楽しいこともたくさんできる」ということを伝えたいと思います。

家族からのメッセージ

大事な家族が認知症になったら受け入れるのに時間がかかります。先の見えない不安を抱えて、どんな情報でも入手しようとするいろいろ調べます。私もそうでした。それから、保健センター（⇒13ページ）に電話して、自分自身の不安な気持ちを聞いてもらいました。認知症について学ぼうと家族勉強会（⇒12ページ）や講演会（⇒22ページ）に参加しました。そして、自分と同じように悩んでいる家族がいることを知り、「自分だけじゃない」と感じることができました。今も日々悩んでいます。でも、誰かに話をしたり、共感してくれる仲間がいることで前向きに考えられるようになりました。



ミーティングセンター
めだかの会
家族代表

品川区在住。夫婦2人暮らし。「しっかりしなくちゃ」と思った時期を経て、今はこれからも変わらず一緒に生活し続けるにはどうしたらいいのかを考えながら過ごす日々を送る。

